

整形外科病棟での NST リンク Ns の取り組み —食事ケアシートの活用—

済生会松阪総合病院 NST 看護部¹⁾ 管理栄養課²⁾ 薬剤部³⁾ 内科⁴⁾
古山二三子¹⁾ 見並ひとみ¹⁾ 中井佐奈¹⁾ 山中理恵¹⁾ 松本由紀²⁾ 内田瑞穂²⁾
佐久間隆幸³⁾ 川添史³⁾ 橋本章⁴⁾ 清水敦哉⁴⁾

【はじめに】当院の整形外科病棟の入院患者は平均年齢 72 歳と高齢化が進んでいる。高齢者が骨折で入院すると ADL の低下、認知症の進行、意欲低下から栄養状態の悪化を招くことがある。このような消化管が保たれている患者に対し、食事ケアシートを活用し、食べることにこだわった取り組みをしてきたので報告する。【対象・方法】65 歳以上の骨折を主訴に整形外科病棟に入院した患者のうち、平均食事摂取量が 5 割以下であった患者を対象に、独自の食事ケアシートを用い摂取量アップを試みた。食事ケアシート使用前、使用 1 年後を比較し食事摂取量 5 割以下の患者割合を調査した。食事ケアシートの項目には食事の様子を観察し、食べ始めることができない、または食べ始めることはできるが食べ続けることができないのかを確認し、その原因を探るためそれぞれの項目を観察していくと、誰でも簡単に問題点に導くことができるように作成した。【結果】食事ケアシートを活用することで問題点が明確になり、その問題点に合った対応ができた。その結果、食事ケアシート使用前 1 ヶ月間では食事摂取量 5 割以下の患者が 15 名中 5 名 (33%) 存在したが、食事ケアシート使用 1 年後では 8 名中 1 名 (12%) に減少した。【考察】消化管が保たれている患者に対し、看護師が積極的に食事ケアシートを用いることで食事摂取量のアップが期待できると思われた。